ぐんぐん通信



地域支援センターぐんぐん 福島県立郡山支援学校内 第1号 令和2年5月11日

みなさんとともに

校長 齊藤 恵子



新型コロナウイルスがなければと・・・と思う毎日が続いていますが、学校のチューリップ は今まさに満開を迎えています。

4月7日、学校は、始業式そして入学式を無事迎え、今年は、小学部16名、中学部22名、高等部19名の児童 生徒が入学してきました。始業式でも入学式でも、同じように強く感じたことがあります。それは、期待感をもった 子どもたち一人一人の「きらり」と輝く表情です。3月の初めから学校が休業となってしまったこともあるのでしょ うか。学校が始まることを「うれしく」「楽しく」思っている様子が手に取るように分かり、とてもうれしく感じま した。学校は、子どもたちにとっての学びの場です。「わかった!」「できた!」「もう一回!」を繰り返す中で、た くさんの学びを自分のものにしていきます。そして、その学びを地域の中で生かしていきます。

地域支援センター "ぐんぐん"は、今年、3年目を迎えました。"ぐんぐん"では、みなさんとともに、一緒に考 え、一緒に歩みたいと考えております。そして、子どもたち一人一人が、期待感をもち自ら学ぶことができるよう環 境を整えたいと考えております。いつでも、お気軽に、ご相談いただきたいと思います。

心に寄り添いながら

教育支援アドバイザー 高坂均

平成30年度より、県内すべての特別支援学校の本校内 に「地域支援センター」が設置され、それぞれ1名ずつ教 育支援アドバイザーが配置されました。

今年度、教育支援アドバイザーとして異動して参りまし た。福島県が進める「未来へつなぐ子育て・教育充実事業」 を推進するために、保護者の皆様や学校等のサポートに努 めていきたいと考えております。特別支援学校や教育委員



会での勤務の経験をいかし、常に相手 の心に寄り添い「**おいあくま**」(おこ るな、いばるな、あせるな、くさる な、まけるな)の精神で頑張りたい と思います。どうぞよろしくお願い いたします。

編集後記 ~「おいあくま」、調べてみました~

今年度は新型コロナウィルスにより、 先の見えない不安な日々が続いています。

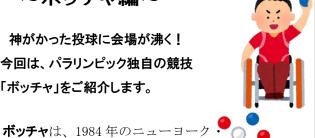
ぐんぐんでも、毎年行ってきた「キラキラ教室」が当面開 催できない状況になってしまいました。

さて、教育支援アドバイザー高坂先生の原稿にある「お いあくま」ですが、戦国大名武田信玄で有名な甲斐の武田氏 の軍学書「甲陽軍鑑」の言葉だそうです。こんな時期だか らこそ、おこらず、あせらず、くさらず、まけずに、乗り 切りたいものです。

パラリンピックを応援しよう!

~ボッチャ編~

神がかった投球に会場が沸く! 今回は、パラリンピック独自の競技 「ボッチャ」をご紹介します。



エイルズベリー大会において、パラリ ンピックで初めて公開され、1988年のソウル大会か

ら正式競技になりました。日本代表チームは**「火ノ玉** JAPAN」の愛称で呼ばれ、2016年のリオデジャネイロ 大会では混合団体が銀メダルを獲得しています。

試合では、まず「ジャックボール」と呼ばれる白い ボールを投げます。それから赤・青それぞれのチーム が6球ずつ、ボールを投げたり、転がしたり、他のボ ールに当てたりして、いかに「ジャックボール」に近 づけることができたかを競います。障がいによっては 足でボールをキックしたり、「ランプ」と呼ばれる滑 り台のような投球補助具を使って転がしたりするこ とができます。ボッチャは、ルールが氷上で行われる

カーリングに似て いることから「地 上のカーリング」 「床の上のカーリ ング」とも呼称さ れています。

